助けられる人から助ける人へ

防災士となった阿多さん（左端）と肥後さん（右端）

2月27日、防災士の認証を受けた坂元郵便局長の肥後正一（ひごしょういち）さんと恒吉郵便局長の阿多辰郎（あたたつろう）さんが報告に来られました。

防災士とは「自助」「共助」「協働」を原則として、十分な意識と一定の知識・技能を修得し、日本防災士機構から認証を受けた方です。現在、市内では11名の局長が防災士を取得しています。肥後さんと阿多さんは「地域貢献が一番の目的。行政と連携を取りながら共助の部分で尽力していきたいです」と話しました。

県外からのお客さん「観光地 曽於市」に大満足

珍しい「野町そば切り踊り」に大感動

曽於市観光特産開発センターは、熊本の旅行会社と連携し、2月下旬から3月上旬までに4回のツアーを行いました。観光客は福岡県、熊本県、宮崎県の広域からで、大型バスが計17台も来る圧巻の光景となりました。市内では昼食と郷土芸能鑑賞・体験を楽しんで頂き、市のPRにも繋がりました。

郷土芸能は、野町そば切り踊り、末吉俵踊り、ひょっとこ踊り、鹿児島おはら節等。保存会の皆さんは「お客さんの笑顔を見て、大きな自信に繋がりました」と話しました。

がねコンテストで曽於市が優勝

優勝に喜ぶ「あさがお」チームの皆さん

2月21日、「こばやし霧島連山絶景ウオーク」が行われた小林総合運動公園で、霧島ジオパーク活性化会議主催の第4回G-1グランプリ環霧島決勝大会（がねコンテスト）が開催されました。このイベントは霧島ジオパーク活動の一環で、地域住民が盛り上げるために行っているものです。

市内からは、曽於市観光特産開発センター協力のもと「あさがお」チームが出場し、見事に優勝しました。また、市特産品の販売・PRも行い、曽於市の魅力を市外へ発信しました。

子どもたちの心ゆたかな成長のために

劇団員と来場者で記念撮影

3月1日、大隅農産加工センターで子ども芸術祭典「おきゃく、おことわり？」人形劇が上演されました。

県子ども劇場協議会が、県内すべての子どもたちに生の優れたお芝居を観て欲しいという願いで26年前から活動しています。

目の前で繰り広げられるお話の世界に子どもたちは引き込まれ、かけがえのない時間となりました。来場者は「観てみたら、人形劇の素晴らしさがよくわかりました。楽しかったです」と感想を述べました。

古城に思いをはせて

城について講演する三木氏

2月21日、曽於地域の城をテーマにした講演会が、末吉総合センターで開催されました。主催は南峰（なんぽう）文化研究会。三木靖氏（みきやすし）（鹿児島国際大学名誉教授）を講師に招きました。

当日は市内外から、歴史愛好家90名が集まりました。三木氏は「城は地域社会の自立・自力の象徴であり、その中核となった」と話し、城と地域住民の関わりを中心に講演しました。

研究会代表の勝目興郎（かつめこうろう）氏は「皆さんが地域の財産である城に興味をもつきっかけになれば」と話しました。

強豪チーム制し自信

アルティエーレの皆さん

2月7日から11日にかけて、吹上浜海浜公園サッカー場で「第46回九州ジュニアU－12サッカー大会県予選大会」が行われました。創部1年目のアルティエーレは強豪の太陽ＦＣに勝利し決勝に進出。飛松ＦＣに惜しくも敗れるも準優勝に輝き、九州大会への出場を手にしました。

アルティエーレは市内2つの少年団が合併してできたチームです。監督の福留文教（ふくどめふみのり）さんは「九州大会は初戦敗退でしたが素晴らしい経験を積むことができた」と話しました。

チャリティー収益金を小学校へ寄付

財部小山﨑校長（左）と財部南小徳丸校長（右）

曽於市消防団財部方面隊が財部南小学校と財部小学校に1万5千円ずつの寄付を行いました。

昨年12月14日に曽於市消防団財部方面隊親善ゴルフ大会を開催。そのなかでチャリティーとして3万円の収益が出たため、地域のために役立てたいと寄付する運びとなりました。

3月5日に財部南小学校徳丸校長へ、翌日には財部小学校山﨑校長へ隊員代表者が「子どもたちは地域の宝。児童が必要とすることに使ってください」と手渡しました。

渡邉さん高齢者叙勲で「瑞宝双光章（ずいほうそうこうしょう）」を受章

谷口教育長（左）と渡邉さん（右）

2月18日、教育長室で渡邉哲夫（わたなべてつお）さん（大隅町月野）に高齢者叙勲の「瑞宝双光章」が伝達されました。

これは日本の勲章の一つで、国や地方公共団体の公務等に長年にわたり従事し、功労を積み重ね、成績を挙げた方に対して内閣総理大臣から贈られる章です。

渡邉さんは、曽於市内の中学校に長年勤務され財部北中学校長を最後に退職。その後は大隅町教育委員長等を歴任され、鹿児島県の教育、曽於市の教育に長年寄与されました。